慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	人見康子さん
Sub Title	
Author	米津, 昭子(Yonetsu, Teruko)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1998
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.71, No.6 (1998. 6) ,p.121- 122
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	人見康子先生追悼記事
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19980628-0121

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

人見康子さん

戦災の焼け跡の姿がまざまざと残っている三田のキャンパスで、一年先輩の人見さんにお目にかかったのは一九四八年（昭和二三年）、私が双子の妹とともに法学部法律学科に入学してまもなくのころだった。髪をキチンと纏めたズボン姿の人見さんは、法学会のルームに私達を連れて行き、そこに集まっていた友人や先輩に私達を引き合わせてくれた。当時は大学も旧制で三年間、入学当初から専門科目が並び、どの科目を履修してもよかったので、私達も人見さんとご一緒にいくつかの科目を机を並べて履修した。また人見さんのお宅が目黒の競馬場の近くで、私達の家にも近かったし、当時は今のようにバスの便もなかったので、大学に行くには共に目黒駅まで歩いてから電車で田町に行き、それから大学まで歩くということだったので、ご一緒に大学に通ったことも何度もある。

人見さんは卒業の後すぐに法学部助手として研究室に残られたが、大学が新制との切り替えのため人見さんのご卒業より半年遅れて卒業して研究室に残った私達はそこでもご一緒するようになった。しかも当時の研究室は一つの大部屋に大先生から助手にいたるまで専任者全員が雑居していたので、人見さんは民法、私達は商法とその専攻は異なっていたが、専攻や学部が違っても大学に居る間は毎日一緒の部屋の中での生活だった。その後何年かたってからは大学の専任者も多くなり、研究室も変わったので、お互いにこれまでのように毎日必ず顔を会わせるということはなくなったが、会うことはしばしばだったし、関西で私法学会が開かれた折などにはご一緒したり、共に美味しい物を食べながら京都の町をブラついたりした。また人見さんとはあい前後して車を運転して大学に通うようになったが、たまたま私が運転しないで出掛けたときなど家まで送って頂いたりした。

昨年の暮、今回のご入院があまりに長くなられたので

是非会いたいと思って病室を訪ねたが、人見さんは思ったより元気で、私が彼女に懐かしいかと思って三田の大学周辺で買い集めた菓子などを「はい！　慰問袋。本当はアイスクリームにしようかと思ったけど今日はやめたわ」と云いながら差し出すと、「あら！　アイスクリームならそこにあるわよ。おあがんなさいよ」といって冷蔵庫を指さして私に勧めた。

人見さんとは五〇年に亘るおつきあいの中で、共に話しあい、はげましあい、共に喜び共に泣いたことなど思い出は山程あるが、思えば人見さんは、自分の途をひたすら真っ直ぐに歩んだ一生で、さっぱりとした人柄、考え方もしっかり自立していたステキな大人だった。

名誉教授　米津昭子

人見康子教授を偲ぶ

今年二月一日に、先輩人見康子教授の訃報を受けた。

昨平成九年七月ころ、たまたま時期を同じくして人見さんと私は信濃町の慶應病院に入院した。人見さんの病室は新棟九階で、私はその上の十階に入った。病室から電話でお互いの病状を伝え合ったのが、生前にお話を交わした最後の機会になってしまった。

人見さんは、昭和二五年三月に慶應義塾大学法学部法律学科を卒業後、直ちに法学部助手に就任されておられるから、私が学校に残った昭和三二年の春には、七年ほど先輩に当たる先任助手であった。そのころの民法専任者といえば、恩師にして大先輩の小池隆一先生や今泉孝太郎先生は、第二研究室（現在の国際センター）に個室を構えておられた別格であり、田中実先生を筆頭に、宮崎俊行さんや人見康子さん、林脇トシ子さん、向井健さ